

2026年度 岡山理科大学大学院  
理工学研究科 修士課程 一般入試（I期）

システム科学専攻 建築学コース 選択A

【注意事項】

1. 選択Aは、問題・解答用紙は全部で13枚あります。
2. 各分野からそれぞれ1科目以上選択して、計5科目を解答すること。  
選択した科目名に○印を記入すること。

分野	科目名	選択
計画	計画1	
	計画2	
	計画3	
	計画4	
	計画5	
	計画6	
	計画7	
構造	構造1	
	構造2	
	構造3	
環境設備	環境設備1	
	環境設備2	
	環境設備3	

3. 解答は、すべて所定の問題・解答用紙に記入すること。
4. 受験番号を記入した上、この用紙も問題・解答用紙と一緒に提出すること。

受験番号	
------	--

鎌倉時代に桔木の形式が確立され、軒先の延びが確保できるようになった。  
寺院建築の軒先の桔木を使った構造について、下記の部材を使って図示しなさい。  
まず、軒桁を描いてから、その他の部材を書くこと。  
また、図には引出線を用いて部材名が分かるようにすること。

① 飛檐垂木、②野垂木、③地垂木、④桔木、⑤軒桁、⑥木負、⑦茅負

受験番号



下記の設問の空欄を埋めなさい。

- 1 パリ郊外のポワシーに立地する ( ① ) 邸は、近代建築の5原則を十分に展開したコルビジエの代表的な住宅である。
- 2 ( ② ) 造りは、日本の古代から中世にかけて用いられた、主に貴族や上流階級の邸宅に見られる建築様式である。( ③ ) 造りは、主に武士階級の住宅に取り入れられ、特に茶室や書斎、座敷などに多く見られる。
- 3 住戸内で、温度差が大きい場所や、湿気が多く、空気が滞留しやすい場所では ( ④ ) が発生しやすい。
- 4 住宅の場合、有効採光面積は居室の床面積の ( ⑤ ) 分の1以上必要である。
- 5 集合住宅は、自ら所有し資産となる ( ⑥ ) 集合住宅と家賃を払って借りて住む賃貸集合住宅に大きく分かれる。
- 6 住宅の場合、部屋に入るドアは、( ⑦ ) 開き、トイレは ( ⑧ ) 開きが基本である。
- 7 キッチンの高さは ( ⑨ ) cm 程度、ダイニングテーブルの高さは ( ⑩ ) cm 程度で計画する必要がある。

解答欄

①	②	③	④
⑤	⑥	⑦	⑧
⑨	⑩		

受験番号	



次の記述は、「建築計画」に関する説明である。記述が適切な場合は「○」を、不適切な場合は「×」を解答欄に記入せよ。

1. ロージェが18世紀に記した「建築論」には、「建築のはじまり（原初の小屋）」と題する口絵が描かれた。この口絵には、壁とアーチによる合理的な建築の原型が示されている。
2. 建築計画学は、よりよい建築環境を目指し、建築を使う人々および使われ方の実態を理解することが肝要であるとする学である。
3. エッシャーは、図形を平面に敷き詰めた模様を独自に研究し、幾何学的な美しさだけでなく、「無限」の概念を作品に取り入れる試みを行った。
4. 見上げるときは同じ距離でも近く感じ、見下ろすときは同じ距離でも遠く感じる。
5. メルテンスは、D/Hによって建築物の見え方の変化を段階化した。水平距離Dを広場や街路の幅員と置き換えて、Hを建築物のファザードの高さとしてD/Hを当てはめると、その外部空間の雰囲気記述できる。
6. 日本の場合、医療法によって19床以上の入院用ベッド（病床）を擁する施設を病院と呼ぶ。
7. 特別擁護老人ホームは、高齢者の通所施設の中心的な存在である。
8. 保育所において、ほふく室（乳幼児用）と保育室は兼用してはならない。
9. 博物館法によれば、博物館は、多様な展示物の、収集・保管・展示と資料に関する調査研究を行う所として定義されている。
10. ロンドン・グローブ座では、舞台の両側に間口と平行な壁を何枚か配置して、舞台の奥行きを出す工夫がなされている。これは、現代の舞台装置として多用される背景パネル（書き割）の起源と考えられている。

【解答欄】

1.	6.
2.	7.
3.	8.
4.	9.
5.	10.

受験番号

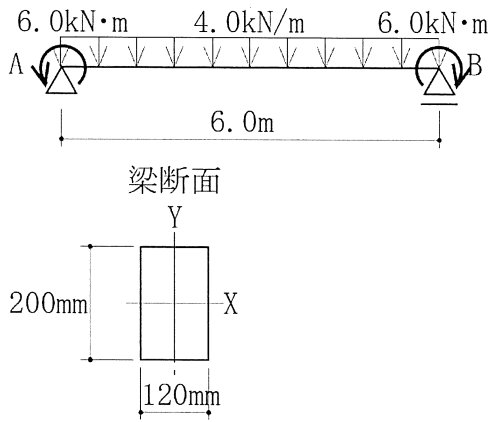
--





図に示す等分布荷重とモーメント荷重の作用する単純梁について、以下の問いに答えよ。

(計算の過程は用紙の空白部に記入せよ。)



1. A点・B点の支点反力を求めよ。右向き・上向きを正とする。
2. 軸方向力(N)図, せん断力(Q)図, 曲げモーメント(M)図を描け。
3. 梁断面 X 軸に関する断面 2 次モーメント, 断面係数を求めよ。
4. 梁材に生じるせん断応力度, 曲げ応力度の最大値(絶対値)を求めよ。

1	A点水平 :	2	N図 _____
	A点鉛直 :		Q図 _____
	B点鉛直 :		M図 _____
3	断面2次モーメント :		
	断面係数 :		
4	最大せん断応力度 :		
	最大曲げ応力度 :		

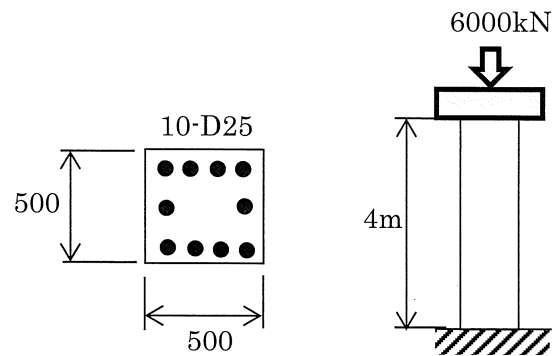
受験番号	

専門科目 [ 構造2 ] 1 / 1

問1. 下図に示すように、鉄筋コンクリート柱が材軸方向に一様に圧縮されたとき、鉄筋とコンクリートに生じる力の合力  $P_s$ 、 $P_c$  を求めよ。また、この柱の材軸方向の縮み量  $\delta$  は全体で何 mm になるか。

ただし、鉄筋のヤング係数は  $2.0 \times 10^5 \text{N/mm}^2$  とし、コンクリートに対するヤング係数比は 10 とし、鉄筋 D25 の 1 本の断面積は  $500 \text{mm}^2$  とする。

なお、コンクリートの断面積を計算するときには、鉄筋の断面積はコンクリートに比較して十分小さいものとして無視してよい。



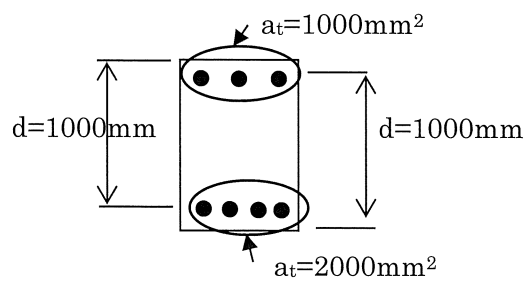
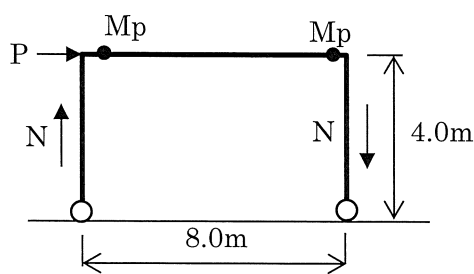
解答欄

$P_c(\text{kN})$	$P_s(\text{kN})$	$\delta (\text{mm})$

問2. 下図に示すように、鉄筋コンクリートの門型フレームに水平力  $P$  が作用したとき、梁の両端が全塑性モーメント  $M_p$  に達した。この時の水平荷重  $P$  および柱の軸力  $N$  を求めよ。

なお、柱脚部はピン支持、柱は弾性とし、柱の内法スパンは 10m とする。また、梁の鉄筋断面積は上端筋  $a_t=1000 \text{mm}^2$ 、下端筋  $a_b=2000 \text{mm}^2$ 、鉄筋の引張降伏応力度は  $\sigma_y=400 \text{N/mm}^2$ 、コンクリート圧縮縁から鉄筋中心までの距離を  $d=1000 \text{mm}$  とする。梁の全塑性モーメントは下式で算定する。

梁の全塑性モーメント :  $M_p=0.9 \sigma_y \cdot a_t \cdot d$



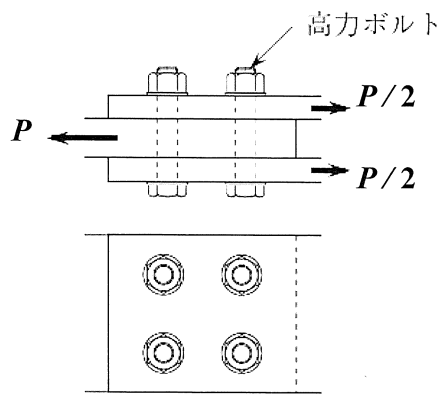
解答欄

$P(\text{kN})$	$N(\text{kN})$

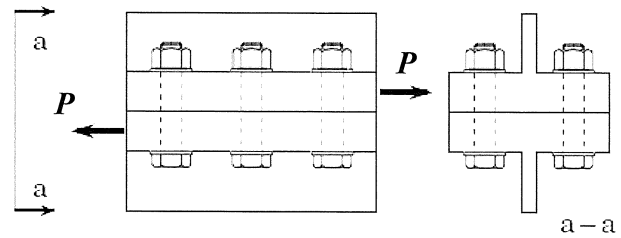
受験番号

以下の1. ~ 3. の高力ボルト接合のすべり荷重  $P$  (kN) を求め、解答欄に記入せよ。ただし、高力ボルトの設計ボルト張力は 150 kN であり、被接合材間のすべり係数はすべて 0.50 である。なお、3. については、計算過程も示すこと。

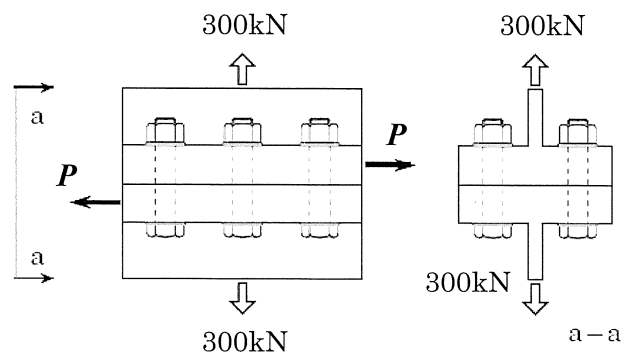
1.



2.



3.



3. の計算過程

解答欄

1	kN	2	kN	3	kN
---	----	---	----	---	----

受験番号

A群に示す建築環境工学に関連する式に最も関係の深い説明をB群から選び記号で答えよ。さらに、1つの式を選んで変数の意味、単位など、詳しい説明をせよ。

A群

1.  $J = J_0 P^{\text{cosec } h}$

2.  $U = \frac{AE}{NFM}$

3.  $E_\theta = \frac{I}{r^2} \cos \theta$

4.  $TL = 10 \log_{10} \frac{1}{\tau}$

5.  $H = \epsilon \sigma T_s^4$

6.  $q = -\lambda \frac{d\theta}{dx}$

B群

ア. シュテファン=ボルツマンの法則

イ. 照明率

ウ. 音響透過損失

エ. ブーゲ(Bouguer)の式

オ. 必要換気量

カ. フーリエの法則

キ. 照度の余弦則

ク. 相当外気温度

【解答欄】

A群	1	2	3	4	5	6
B群						

選んだ式の番号 [       ]

詳しい説明

---



---



---



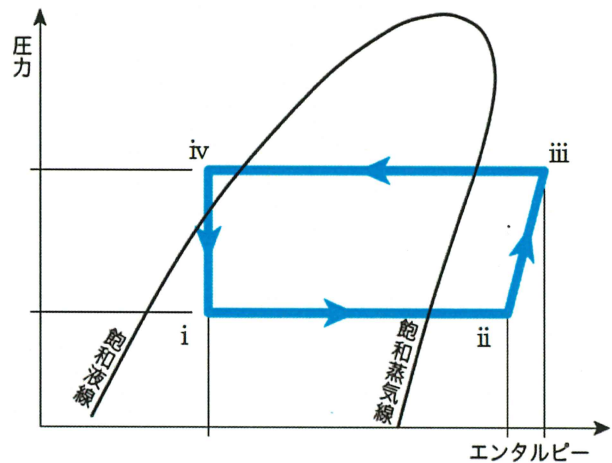
---

受験番号


問1 冷凍サイクルに関する次の文について、空欄①～④に入る適切な用語を選択肢ア～オから選び、空欄⑤については適切な用語を解答欄に記入せよ。

冷媒ガスは(①)過程で加圧され高圧・高温のガスになり、(②)過程で冷却されて液化する。この液は(③)過程を通過して(④)過程で気化し、周囲から熱を奪う。(④)した低圧の冷媒ガスは再び(①)過程に戻る。このように冷凍機では(④)過程で熱を奪って冷凍作用をする。(②)過程では熱を外に出し冷媒が液化する。

この冷凍サイクルを表すのが右図の(⑤)線図である。このサイクルを回すために必要となる力学的エネルギーは ii→iii の過程で与えられる。



- ア. 膨張      イ. 断熱      ウ. 圧縮      エ. 蒸発      オ. 凝縮

解答欄

①	②	③	④	⑤
---	---	---	---	---

問2 給排水衛生設備に関する下記の設問の正誤を解答欄の正誤欄に記入せよ (正:○、誤:×)

また、誤りの場合は、誤り箇所を指摘し、正しくなるように修正文章を修正欄に記述せよ。

- 飲料水用配管から空調設備配管へ給水する場合には、クロスコネクションを防止するために、一般に、逆止め弁を設ける。
- 循環式の中央式給湯設備の給湯温度は、レジオネラ属菌対策として、貯湯槽内を 50℃以上、末端の給湯栓を 45℃以上に保つ必要がある。
- 一般的な事務所ビルにおいて、断水等に対処するため、飲料用受水槽の容量を1日予想給水量の2倍とした。
- 雨水排水管径の算定に用いる雨量に最大雨量の1時間値を用いることは、10分間値を用いた場合よりも排水管径は大きくなるので、局地的な集中豪雨への対策として有効である。
- 排水管内の圧力変動が大きい場合は、排水トラップを直列に二重に設ける。

解答欄

問	正誤欄	修正欄
1		
2		
3		
4		
5		

受験番号

--	--

